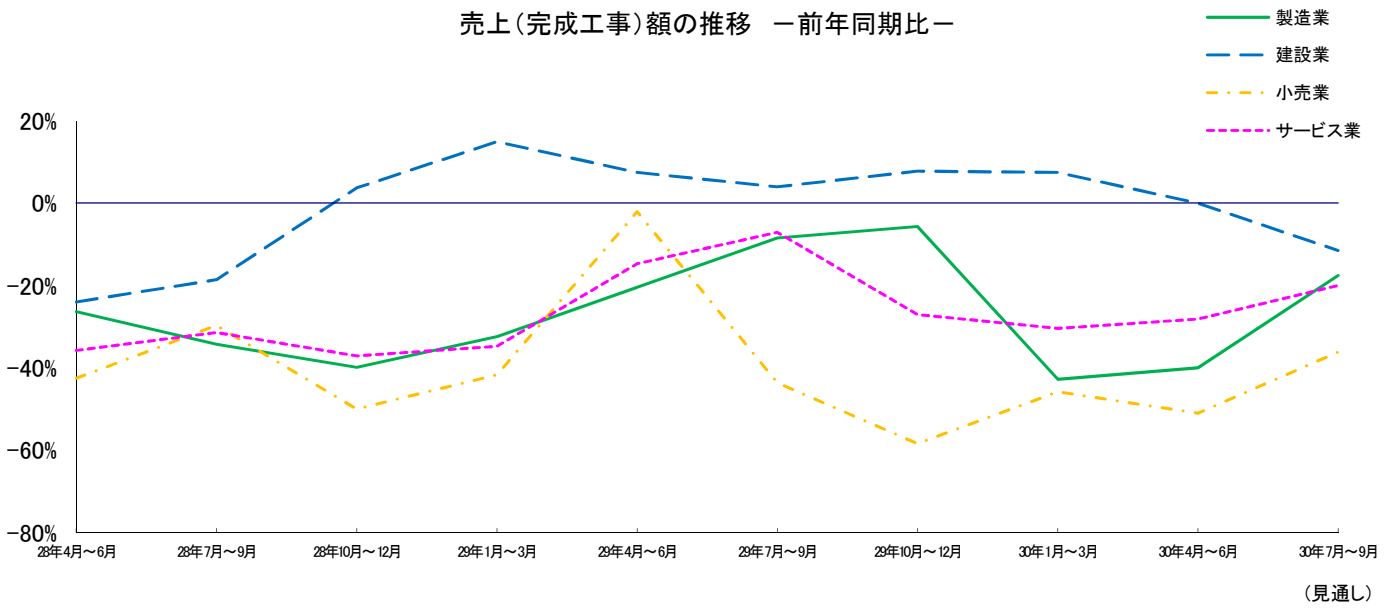
地域経済動向調査レポート（中小企業景況調査より）

平成３０年４～６月期の実績・平成３０年７～９月期の見通し

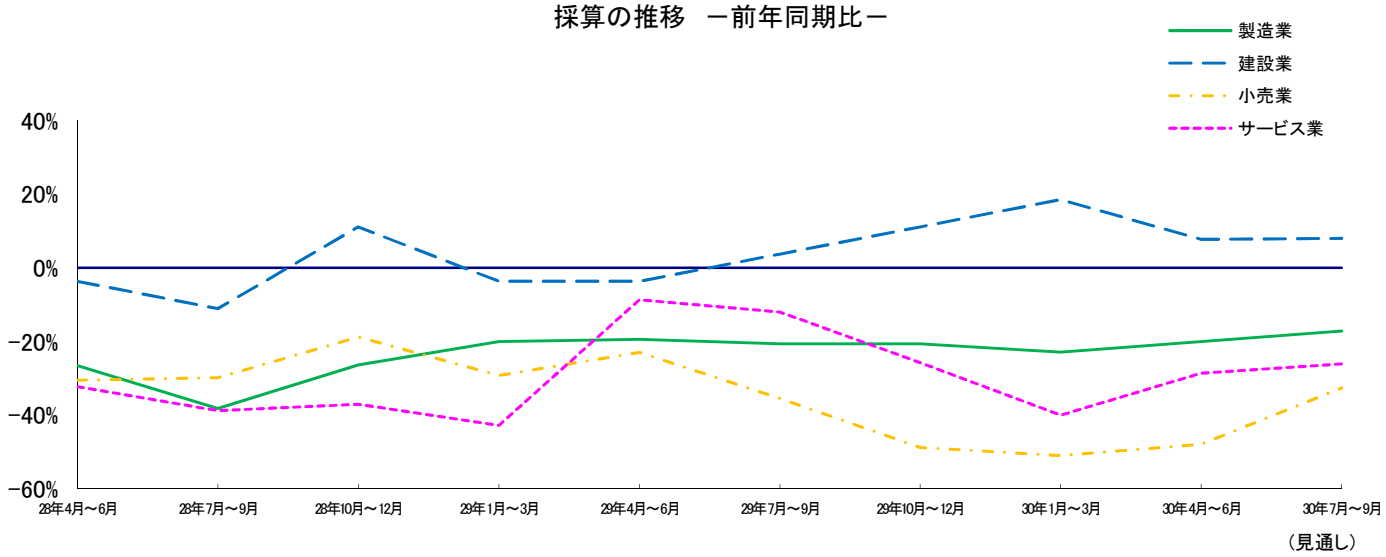
景 況 概 要 ═ 長崎県の全産業

【売上】



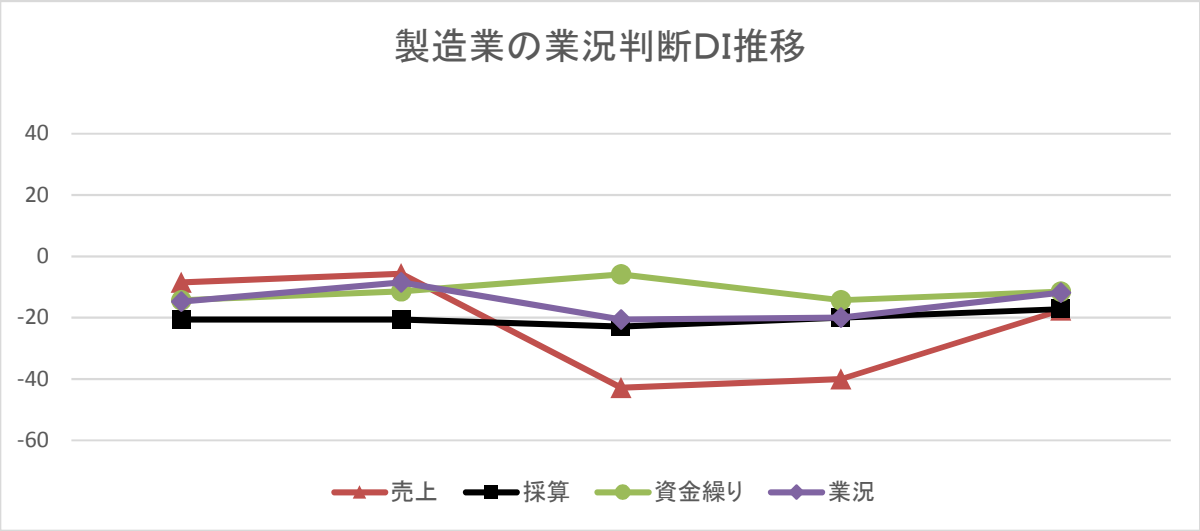
今期改善を示したのは、「製造業」（２．８ポイントの改善）、「サービス業」（２．２ポイントの改善）、悪化を示したのは「建設業」（７．４ポイントの悪化）、「小売業」（５．２ポイントの悪化）であった。
来期の見通しでは、改善を示したのが、「製造業」（２２．４ポイントの改善）、「小売業」（１４．８ポイントの改善）、「サービス業」（８．２ポイントの改善）で、悪化を示したのは、「建設業」（１１．５ポイントの悪化）であった。

【採算】



今期改善を示したのは、「製造業」（2．9ポイントの改善）、「小売業」（3．1ポイントの改善）、「サービス業」（11．4ポイントの改善）で、悪化を示したのは「建設業」（10．8ポイントの悪化）であった。
来期の見通しでは、改善を示したのは、「製造業」（2．8ポイントの改善）、「建設業」（0．3ポイントの改善）、「小売業」（15．3ポイントの改善）、「サービス業」（2．5ポイントの改善）であった。

〔注〕本レポートの中で「Ｄ・Ｉ」とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）　の略です。
例えば各調査項目について増加（又は上昇、好転、長期化）と答えた企業の割合から 、
減少（又は低下、悪化、短期化）と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。
マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。



	17年7～9月期	17年10～12月期	18年1～3月期	18年4～6月期	18年7～9月期見通し
売上	-8.5	-5.7	-42.8	-40.0	-17.6
採算	-20.6	-20.6	-22.9	-20.0	-17.2
資金繰り	-14.3	-11.4	-5.9	-14.3	-11.5
業況	-14.8	-8.5	-20.6	-20.0	-11.8

今期、売上が「増加した」と答えた企業は１４．３％と、前期の１４．３％と同値であった。また、「減少した」と答えた企業は５４．３％と、前期の５７．１％から２．８ポイント減少した。このため、今期Ｄ・Ｉ値は△４０．０と、前期の△４２．８から２．８ポイント改善した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は１１．８％、減少すると予測した企業は２９．４％で、これにより来期のＤ・Ｉ値は△１７．６と、今期の△４０．０から２２．４ポイントの改善を予測している。

〔調査対象企業のコメント〕

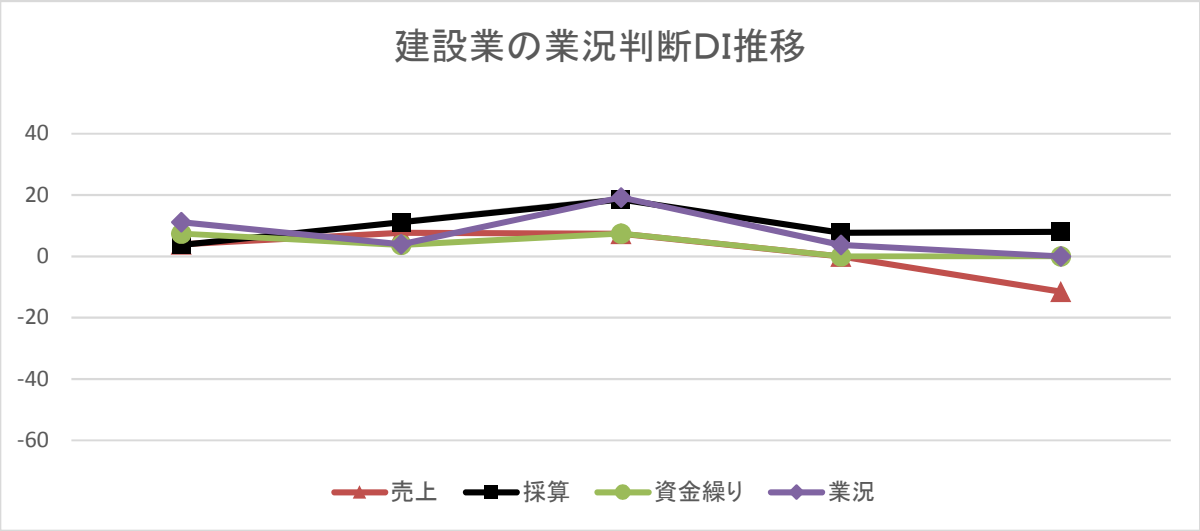
・輸送コスト、原油高騰によるコストが５％上昇してきている。

・だんだん仕事が減り、資金繰りが困難になってきている。先の見通しがつかない。

・取り引き先が各店で独自の印刷物を作成、出力し始め、その店舗数が100件を超えるため、売上減少につながってしまう。各店のニーズに応え、受注を増やすと共に、新規取引先の開拓にも力を入れていこうと思う。

・ここにきて、取引注文の減少があり、需要の停滞が厳しいと感じる。引合いは、そこそこあるが、なかなか取引までは至っていないのが現状である。商品力の向上を図ることが必要だと思う。

・今期は、市の入札がとれたので売上が例年並みである。時期的なもので来期は売上が減少すると思われる。今年度は、市の定期物が２つとれたので、少しはよい兆し。



	17年7～9月期	17年10～12月期	18年1～3月期	18年4～6月期	18年7～9月期見通し
売上	3.9	7.7	7.4	0.0	-11.5
採算	3.7	11.1	18.5	7.7	8.0
資金繰り	7.4	3.7	7.4	0.0	0.0
業況	11.1	3.9	19.2	3.7	0.0

今期、売上が「増加した」と答えた企業は２５．９％と、前期の２９．６％から３．７ポイント減少した。また「減少した」と答えた企業は２５．９％と、前期の２２．２％から３．７ポイント増加した。このため今期Ｄ・Ｉ値は０．０と、前期の７．４から７．４ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は１５．４％、減少すると予測した企業は２６．９％で、これにより来期のＤ・Ｉ値は△１１．５と、今期の０．０から１１．５ポイントの悪化を予測している。

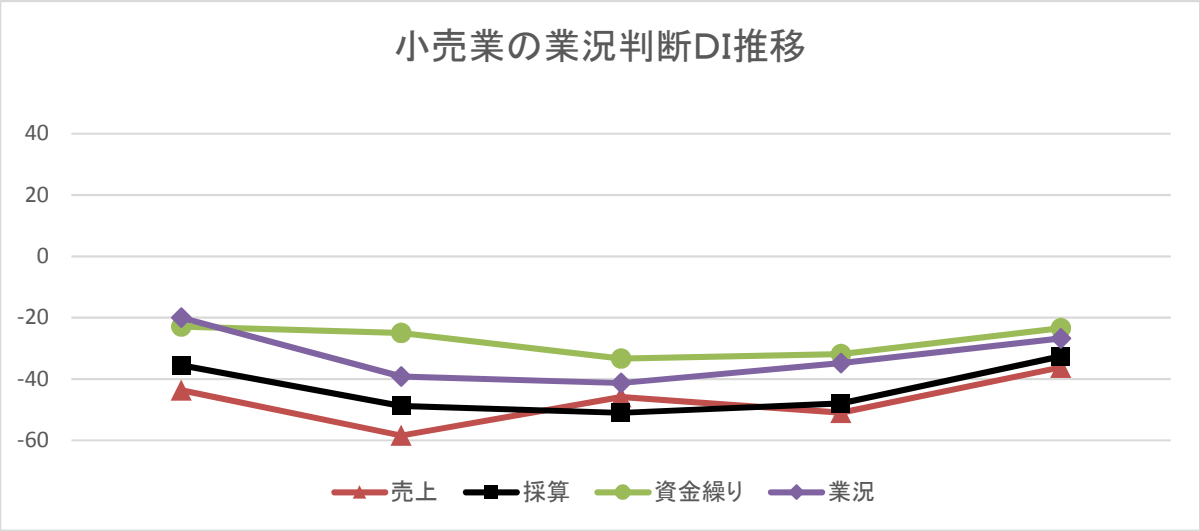
〔調査対象企業のコメント〕

・公共工事及び民間工事（太陽光発電関係）が受注出来、利益も見込まれる。しかし当社の熟練工（大工、左官）の高齢化により、外注費が増加傾向にある。

・オリンピック、熊本震災復興等で建設業は活発。それに伴い、熟練技術者や従業員の確保が難しくなっている。その為、外国人実習生の受け入れ、工場の機械化を進めている。

・手間や時間がかかる現場であっても面積などを基準とした単価となるため、利益が出にくいことがある。その場合、工事数が多くても収支トントンもしくは、赤字となってくる。

・業界全体で仕事量が多く大工他の作業員の確保が難しい状況。新規の引き合いも多い。



	17年7～9月期	17年10～12月期	18年1～3月期	18年4～6月期	18年7～9月期見通し
売上	-43.6	-58.4	-45.8	-51.0	-36.2
採算	-35.5	-48.8	-51.0	-47.9	-32.6
資金繰り	-22.9	-25.0	-33.3	-31.9	-23.4
業況	-20.0	-39.2	-41.3	-34.8	-26.7

今期、売上が「増加した」と答えた企業は４．３％と、前期の１２．５％から８．２ポイント減少した。また、「減少した」と答えた企業は５５．３％と、前期の５８．３％から３．０ポイント減少した。このため、今期Ｄ・Ｉ値は△５１．０と、前期の△４５．８から５．２ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は１０．６％、減少すると予測した企業は４６．８％で、これにより来期のＤ・Ｉ値は△３６．２と、今期の△５１．０から１４．８ポイントの改善を予測している。

〔調査対象企業のコメント〕

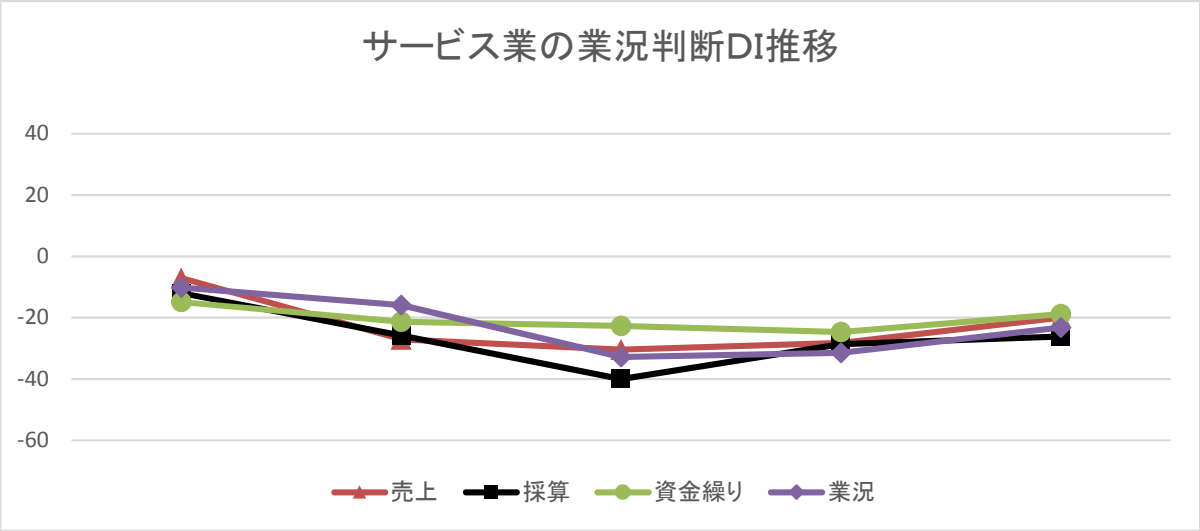
・冬期からの燃料消費が少なくなり、また今から梅雨時期に近づいて雨が多くなると、需要が停滞し、燃料油以外の売上げも大幅に減少する。天候にも左右される商売であるので、これから先も厳しい状況は変わらない。

・長年のお得意様のおかげで採算がとれてる。原油値上りをすぐに価格に反映できないのが痛手。設備の老朽化で修理することが多い。年齢も限界だと思うことがある。

・人口減少、少子高齢化により客数減少が続いている。更に船賃の低廉化によって購買力の島外流出が目立ってきた。又、貨物運送料の値上りがひどく、困っている。利益の確保が、益々困難な状況である。

・町の過疎化とお客様の高齢化が進み深刻な問題となっている。一年一年売り上げが下がると思うので対策を考えてはいるが、体力も落ち現状維持で精一杯である。

・小売業における個人商店の地位が少しずつ低下している。近い将来キャッシュレス化にも対応しなくてはならないかもしれない。



	17年7～9月期	17年10～12月期	18年1～3月期	18年4～6月期	18年7～9月期見通し
売上	-7.1	-27.1	-30.4	-28.2	-20.0
採算	-12.0	-25.8	-40.0	-28.6	-26.1
資金繰り	-14.9	-21.3	-22.7	-24.7	-18.8
業況	-10.2	-15.9	-32.8	-31.4	-23.2

今期、売上が「増加した」と答えた企業は１９．７％と、前期の１７．４％から２．３ポイント増加した。「減少した」と答えた企業は４７．９％と、前期の４７．８％から０．１ポイント増加した。このため、
今期Ｄ・Ｉ値は△２８．２と、前期の△３０．４から２．２ポイント改善した。
「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は１２．９％、減少すると予測した企業は３２．９％で、これにより来期のＤ・Ｉ値は△２０．０と今期の△２８．２より８．２ポイントの改善を予測している。

〔調査対象企業のコメント〕

・インバウンドの営業効果が少しずつではあるが地方にも押し寄せてきている。外国人のお客様をお迎えする準備を考えていかなければならない。

・家庭で洗える衣類が増え、ライバルは他店ではなく”家庭”になっている。いくら価格を安くしても家で洗える商品は出来ない。お客様の”お金を出してもプロに任せるしかない”と思う要望に応えられなければ我々の仕事は無くなってしまう。

・４月、５月は県外の会員権が良く売れて、売り上げ・利益ともよかった。しかしながら長崎県内は需要の停滞が続いており、県内に可処分所得者の増加を期待するしかない。

・ゴールデンウィークは、昨年までは忙しく従業員の勤務時間を増やして対応していたが、今年は船の島割もはじまり、島内から島外へ出る方が多く思った様に客足が延びなかった。

・世界遺産関連の影響か昼の営業時はぐんと増えた。